

# 関東甲信越土を考える会 総会・研修会を開催しました

2026年3月5日



挨拶する渡邊会長

関東甲信越土を考える会は 2月18日(水)、茨城県にて総会・研修会を開催いたしました。  
「**気象変動×原点回帰**」と題した今回の研修会には、会員および一般参加の生産者・企業・事務局を合わせ42名が、ホテルグランド東雲(つくば市)に集いました。

渡邊会長の挨拶で幕を開け、「**気象変動下で収量・品質を安定させる土づくり**」をテーマに、物理性編・化学性編・生物性編のそれぞれの観点から、3名の講師よりご講演をいただきました。

物理性編では、スガノ農機 技術顧問の齋藤義崇氏より、レベラーによるほ場のゆがみ取りや、プラウを用いた25~30cmの作土層形成など、作物が養分を十分に吸収できる物理的環境の整備についてご講演いただきました。

化学性編では、片倉コープアグリ株式会社 販売課課長・土づくりマスターの横坂智彦氏より、化学性の観点から見た必要資材を用いたアプローチ方法や、現在話題となっているバイオスティミラント資材についてご講演いただきました。

生物性編では、株式会社リーフ つくば牡丹園 園長の関浩一氏より、物理性改善と高密度微生物叢堆肥(さまざまな微生物を豊富に含む堆肥)、ケイ酸カリ乳酸発酵黒糖液を組み合わせた、高温下における生育安定技術についてご講演いただきました。

いずれの講師からも共通して、根をしっかり張らせ、根から水分とともに必要な栄養素を吸収できる環境を整えることが、異常気象に負けない丈夫な作物づくりにつながるのご提言がありました。また、そのためには自らのほ場の土の状態を正しく把握することが重要であると、例え話を交えながら分かりやすくご説明いただきました。

休憩後には、先人たちの取り組みを紹介する「**絆 ~人が交わり 人が飛び立つ~**」を上映いたしました。農業に向き合う真摯な姿勢や情熱に触れ、参加者それぞれがこれからの取り組みを考えるひとときとなりました。

その後の総会では、2025年度の事業報告・会計報告、2026年度の活動計画などすべての議案が承認されました。また、新たに入会した10名の新会員の紹介も行われました。

総会後の情報交換会では、講演では質問しきれなかった事柄について講師の先生方と直接意見を交わす場となり、活発な議論が展開されました。お酒も入り、さらに熱を帯びた交流の時間となりました。

本研修会の開催にあたりご参加いただいた皆様、関係各位に、心より御礼申し上げます。



物理性についてご講演の齋藤義崇氏



化学性についてご講演の横坂智彦氏



生物性についてご講演の関浩一氏



熱心に講演を聞き入る参加者



総会では、全ての議案が承認されました



会場にいらした3名の新会員

